

仙北市子ども読書活動推進計画

(平成 27 年度～平成 31 年度)



仙北市教育委員会

***** 目 次 *****

第1章 計画策定の主旨

1	計画の策定にあたって	1
2	計画の期間	2
3	計画の対象	2

第2章 計画の基本目標

1	基本目標	2
2	施策の体系	3

第3章 読書活動の推進

1	家庭	4
2	地域	7
3	学校等	9
	(1) 幼稚園・認定こども園・保育園	
	(2) 小学校	
	(3) 中学校	
	(4) 高等学校	
4	市立図書館	14
※	用語解説	17

資料編

1	アンケート調査概要及び結果	18
2	市立図書館／公民館図書室／ボランティアグループ	25
3	仙北市民読書条例	26
4	仙北子ども読書活動推進計画策定委員会名簿／ 仙北子ども読書活動推進計画策定経過	27

第1章 計画策定の主旨

1 計画の策定にあたって

子どもにとっての読書は、言葉を学ぶ一方、成長の各段階において、体験では出会うことのない「驚き」や「感動」を味わうことができ、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく大変重要なことです。特に乳幼児期からの本との関わりは、他人を思いやる心や知的好奇心、また喜びを知る機会を得ることができ、子どもが成長する過程において欠かすことのできない大切なものです。

国では、子どもの読書活動を社会全体で支援するため、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が成立、秋田県では、平成22年4月に「秋田県民の読書活動の推進に関する条例」が施行され、平成23年3月に「秋田県読書活動推進基本計画」が策定されました。仙北市においては、法律や国、県の計画の趣旨等を踏まえ、平成23年6月に「仙北市市民読書条例」（以下「読書条例」という。）を制定しました。基本理念に、読書とは子どもにあつては、生活に必要な日本語を正しく理解し、表現力を高め、創造力を豊かにし、多様な人生を間接的に体験できるものであるとともに、自ら学ぶことを通して得た知識を学習の場で活用することに寄与するものである、と謳われています。それを基に市立図書館の充実及び情報の提供、市立図書館と学校図書館、公民館等とのネットワーク構築、読書の促進及び学習支援の推進などを責務として掲げ、心豊かな人々が暮らす元気なまち仙北市を目指しています。

読書条例を受け、本計画を策定するにあたり、仙北市における子どもの読書の実態を把握するため、児童・生徒・保護者を対象者として、また、学校・幼稚園・保育園・図書館等を対象施設として、平成26年2月にアンケート調査を実施しました。その結果、中学生までは「読書が好き」という回答が多くありましたが、高校生になると興味の対象や行動範囲が広がり、読書にかかる時間は減少していました。また、図書館の利用について「全然行かない」と回答した子どもの中には、読みたい本は買うという答えが多く見受けられました。このようにアンケート結果から見えてきた子どもの読書の実態を基に、読書活動推進計画策定委員会において計画を策定しました。

本計画は、今後概ね5年間にわたる施策の基本目標を定め、具体的施策を示し、総合計画等との整合性を図りながら、施策の総合的かつ計画的な推進を図るものです。

2 計画の期間

計画の期間は、平成27年度から平成31年度までの5年間とします。

ただし、計画の期間中であっても必要に応じて内容の変更・修正等の見直しを行います。

3 計画の対象

この計画は、おおむね18歳以下の子どもと、子どもの読書活動の推進にかかわる保護者をはじめボランティア、行政関係者などを対象とします。

第2章 計画の基本目標

1 基本目標

読書は読解力や想像力・思考力・表現力等を高め、知識を豊富にしてくれるものです。特に子どもにとっての読書は社会に参加していくために必要な知識や教養を身に付ける重要な知的活動の一つです。子どもが読書に興味や親しみを持ち自主的に読書するよう、保護者をはじめとするまわりの大人が積極的かつ継続的に子どもに働きかける必要があります。

仙北市では、次の2項目を基本目標に定め計画を推進します。

- 子どもの発達段階に応じた読書に親しむことのできる環境整備
- 家庭・地域・学校・図書館等のそれぞれの機能を活かした読書活動の推進と連携



2 施策の体系

基本目標	区分	施策	就学前児童	小学生	中学生	高校生	
〇〇 家庭・地域の発達段階に 応じた読書の推進と連携	家庭	・ブックスタート事業の再開	○				
		・保護者への読書の普及	○	○			
		・家庭での読書習慣	○	○			
		・親子で図書館活用	○	○			
		・読書の啓発	○	○	○	○	
	地域	・読み聞かせボランティアの育成と支援	○	○			
		・図書の新設スペースの確保	○	○	○	○	
		・図書館から離れた地域への図書貸出	○	○	○	○	
	学校等	幼稚園 認定こども園 保育園	・読み聞かせの継続と家庭との連携	○			
			・市民ボランティアとの連携	○			
		小学校	・読書意欲向上のための工夫		○		
			・学校図書館の活用促進		○		
			・学校司書の配置		○		
			・情報の共有化と学校間連携の強化		○		
		中学校	・学校図書館の活用			○	
			・学校司書の配置			○	
			・情報の共有化と学校間連携の強化			○	
			・市民ボランティア等の協力			○	
		高等学校	・読書への興味の呼び戻し				○
			・学校と図書館の連携強化と情報の提供				○
		市立図書館	・図書館の情報提供	○	○	○	○
	・図書の充実		○	○	○	○	
	・成長過程に合わせた選書・展示・イベント等の実施		○	○	○	○	
	・学校等への支援		○	○	○	○	
	・親子を対象とした読書活動の実施		○	○			
	・親しまれる図書館づくりの推進		○	○	○	○	
	・図書館の役割等を学ぶ機会を支援			○	○	○	
	・学校図書館支援事業の継続			○	○		

第3章 読書活動の推進

1 家庭

子どもの読書習慣は普段の生活の中で形成されます。就学前の子どもは家庭内で過ごす時間が長いので、本を読む習慣を根付かせるには良い機会と考えます。読み聞かせをしたり、一緒に本を読む時間を持ったり、また図書館に出かけたりするなど、子どもが本に親しむきっかけを作ってあげることが重要で、保護者の積極的な姿勢が求められます。

【現状と課題】

仙北市内では、学習資料館を会場に毎月第1土曜日に開催しているボランティア団体の読み聞かせ会があります。この読み聞かせ会には、幼児から小学生までの子どもとその保護者併せて20人ほどが毎回参加しています。また、田沢湖図書館でも年4回程度の読み聞かせ会と年2回程度の朗読コンサートが開催され、子どもから大人まで楽しんでいます。

アンケートによると、「本を読んでもくれたのはどんな人か？」という質問に対して、母親と答えた子どもが圧倒的に多く、次に祖母となっています。父親や祖父は10%に届かない状況となっています。

小学校低学年では、その他が23.2%で祖母の16.9%を上回っています。これは学校や図書館での読み聞かせ会が反映しているものと思われます。「1ヶ月のうちでだいたい何冊の本を読みますか？」との質問では、低学年では1ヶ月あたり11冊以上本を読むと答えた人が最も多く23.4%を占めていますが、高学年になると3~4冊本を読むと答えた人が最も多く29.9%、次いで1~2冊と答えた人が27.3%で合わせると全体の6割近くを占めています。「家に帰ってから主に何をすることが多いか？」の質問で最も多かったのは、小学校では部活や習い事、勉強をするが33.3%となっています。ゲームをする、テレビを見るがそれに続いています。本を読むと回答した人は6.6%でした。

中学生では、月に1~2冊が46.6%、3~4冊が32.0%となり、この2つで全体の8割近くを占め、11冊以上と答えた人は2.1%に留まっています。「家に帰ってから主に何をするか？」の質問で、最も多かったのは小学生と同じく部活や習い事、勉強をすると答えた人で33.4%、テレビを見る、ゲームをする、ぼんやりすると答えた人は合わせると55.0%になります。本を読むと回答した人はわずかに5.8%でした。

高校生では、読書離れの傾向がもっと顕著に現れ、全然読まないと答えた人が40.9%、月に1~2冊が45.8%となっています。家に帰ってからすることで最も多かったのは、テレビを見るが41.9%。ぼんやりする、部活動や習い事、勉強をす

るが続いています。本を読むと回答したのはわずか2.7%でした。

「家族の中で本のお話をしますか？」の質問に対しては、どの年代でも話をすると答えた人は少なく、たまにすると全然しないを合わせ90%前後となっています。年齢が上がる毎に本のお話が減少しています。

仙北市（町村合併前を含む）では、かつてブックスタート（※1）事業を実施していましたが現在は実施されていません。ブックスタートを実施している自治体は全国で881市町村となっていて、秋田県では大仙市や美郷町を含め14市町村（平成26年6月30日現在 NPOブックスタート調べ）となっています。

また、アンケートでは「小さい頃に家族に本をよく読んでもらっていましたか？」との質問に、小学校低学年では読んでもらえなかったように思うと答えた人の割合が高くなっています。就学前の子どもについては、子どもに代わって保護者が回答したと思われそうですが、あまり読んでもらえなかったように思うと答えた人が50%を超えています。保護者自身もあまり読んであげられなかったと感じているように受け取れます。

小学校、中学校、高校と年齢が上がるにつれて、家に帰ってからの読書の時間が目に見えて減っています。逆にテレビを見る、ぼんやりすると答えた人が増加しています。読書離れが危惧されている現在、手を伸ばせば本に届くような環境、わずかな時間を見つけては本を手にするような習慣付けが望まれます。読書はテレビと違い自分から読もうとする行動が伴います。そのためには幼い頃に読書習慣を身に付け自然に本を読むという行動がとれるよう大人が環境・習慣を作ってあげることが重要となってきます。

【今後の取り組み】

・ブックスタート事業の再開

赤ちゃんと保護者が絵本を介して心ふれあう時間を持つきっかけを届ける事業です。親子のふれあいを深める取り組みとして、さらには子育て支援や本に親しむ環境づくりにも期待されています。

ブックスタート事業の早期再開を働きかけます。

・保護者への読書の普及

幼い子どもに読書習慣を身に付けさせるためには、家庭で子どもと一緒に本を読み、また大人が本を読んでいる姿を見せるなど、保護者の積極的かつ継続的な関わりが大変重要です。また、子どもの「もっと読んでほしい」に応えることも大切です。親が常日頃から本に親しみ、子どもの手本となるような環境づくりに積極的に取り組みます。

・家庭での読書習慣

子どもは自分で本を読めるようになっても親などに読んでもらうのが大好きです。文字が読めるようになった子どもにとっての読書は、読めるようになった楽しさもある反面、大変なエネルギーを必要とします。本を読んでもらうことはとても心地良くより創造力を豊かにしてくれ、更にはスキンシップがはかれます。

読書の楽しみを継続させ、習慣化させるためにも、「自分で読みなさい」と突き放すばかりではなく、子どもの発達に応じた育児の中で親子一緒に本を読む時間を持つことで子どもの読書習慣が培われると考えます。読み聞かせ会などを通して、家庭における読書習慣の確立に努めます。

・親子で図書館活用

図書館には子どもの発達段階に応じた本がたくさんあります。子どもにとって図書館は読みたい本を自由に選択し、読書の楽しみを知ることができる場所です。保護者にとっても子どもに読ませたい本が見つかる場所です。また、図書館では定期的に読み聞かせ会などを開催しています。親子で図書館に出向き、家では味わえない本の世界の広がりを感じてもらいたいものです。子どもと本を結ぶ図書館の利用促進を図ります。

・読書の啓発

中学生・高校生の読書離れは全国的なものです。部活動や勉強のストレスから解放されるための気分転換にテレビを見たりゲームをしたりすることも必要ですが、読書による気分転換もあることを気付かせてあげることも大切です。

「楽しかった本や勉強になった本を教えてください」の質問では、シリーズ本が多く挙げられていました。自分の好きな本に巡り会うことで、読書に目覚めることも考えられます。

1人でも多くの子どもが好きな本に巡り会うことができるよう啓発に努めます。

努力目標

○ブックスタート事業

(平成26年度) 休止

⇒ 再開 (目標値)



2 地域

仙北市内には、田沢湖地区と角館地区に市立図書館が各1ヶ所、西木地区に公民館図書室が1ヶ所あります。

地域において、子どもの読書を支援するボランティアグループが、子どもと本をつなぐ活動を続けています。子どもの生活の中で、本と出会い、本と関わりを持つためには、読み聞かせグループなどの活動が欠かせません。

(市立図書館・公民館図書室・ボランティアグループについては資料編に掲載)

【現状と課題】

子どもは、日常生活のほとんどを自分の住んでいる地域内で過ごし、就学前の子どもの多くは、幼稚園や保育園を利用しています。核家族化が進み女性の社会進出に伴い0歳児から保育園を利用する子どもが多くなり、また小学校低学年では放課後児童クラブなどを利用する子どもがいます。アンケートによると、地域での子どもたちの余暇の過ごし方は「テレビを見る」、「部活動や習い事、勉強をする」、「ゲームをする」で全体の6割以上を占め、「本を読む」と答えた子どもは6.2%に留まっています。この数字に表れているように本に触れる機会が少なく、学校で毎日行われる朝の読書や幼稚園・保育園などでの読み聞かせなどが重要な役割となっています。

子どもたちと本をつなぐきっかけ作りをしている読み聞かせグループがそれぞれの地域にあり、学校や図書館などを主な活動場所として定期的に活動を続けていて、子どもたちは毎回楽しみにしています。また、最近では読み聞かせに加え図書館などと連携したイベントを開催し、就学前の子どもやその親からも大変好評を得ています。

また、「図書館に全然行かない」と答えた子どもが全体で51.8%となっています。図書館まで遠いなどの理由から図書館を利用することが困難な場合もあります。特に就学前の子どもはアンケートによると全体で71.7%が全然行かないと答えています。理由として、本を読みたいが行く時間が無いと答えた子どもの割合が29.2%と高い数字になっています。

このことから親が図書館を利用する習慣がある場合などを除くと外出する機会の少ない就学前の子どもは図書館へ連れて行ってもらう機会も少ないと考えられます。

図書館に行かないと答えた小学生は、約3分の1を占めていますが、特に西木地区

では、40%台になっています。学校の近くに公民館図書室が設置されていますが、利用度はとても低く、周知が必要と思われます。

平成23年から図書館を直接訪れなくても仙北市のホームページの「学習資料館図書検索」から蔵書検索ができるようになりました。在宅で蔵書検索ができることを知っている人は少なく、周知方法に工夫が必要となっています。

【今後の取り組み】

・読み聞かせボランティアの育成と支援

新たな活動グループの育成に努め、多くのボランティアが読み聞かせ活動ができる機会を増やすために支援をしていきます。

読み聞かせのボランティアグループでは、実際に活動している人が限られてきていることから、活動意欲を向上させるような養成講座や研修会の情報を提供します。

・図書の設置スペースの確保

子どもたちが住んでいる地域の中で、子どもが利用しやすいもっと身近なところに本に親しむことができる場所を設定するなど環境整備に努めます。

・図書館から離れた地域への図書貸出

図書館から遠い地域にも本の貸出ができるよう地域と市立図書館が連携し、公共の施設などの活用により図書貸出が可能か調査・試行します。

また、仙北市ホームページの図書検索を活用することにより簡単に図書情報が得られることは、利用度を高めることに結びつくため、広く活用の周知を図ります。



3 学校等

学校では、生涯にわたり学習する基盤を培うこと、基礎的な知識及び技能の習得とこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育むことが、学校教育法、学習指導要領等に定められています。そして、学校はこの目標を達成するために、子どもの主体的、意欲的な読書習慣を形成する場所としての大きな役割も担っています。

学校は子どもが活動する時間の大半を過ごす場所です。それゆえ、子どもの読書活動を推進する上ではとても重要な場所と言えます。そこでは、次の3点が子ども読書活動推進の取り組みの中心となります。

- 読みたい本を子どもがすぐに手に取ることができるように、子どもの手が届く場所に本を揃えておくこと
- 子どもが本を読むための場所と時間を確保すること
- 子どもに本（読書）の魅力をいろいろな方法で伝えたり教えたりできる大人がそばにいること

(1) 幼稚園・認定こども園・保育園

【現状と課題】

幼稚園・保育園には、家庭より多くの本が揃っていて、園児は先生へ「本を読んで」を持ってきます。園児は、絵本を見てことばを学び、また絵本を見て実際の体験では出会うことのない「驚き」や「感動」を覚えます。読み聞かせてもらう喜びとページをめくるたびに新しい場面と出会う喜びを通して、子どもの心にあたたかく豊かな言葉が取り込まれ、穏やかで健やかな心が育まれることを大切にしてほしいと考えます。ほとんどの幼稚園・保育園では、毎日のようにお昼寝前あるいは降園前に絵本の読み聞かせを実施しています。たくさんの本と出会い、創造力や想像力を豊かにし、温かく豊かなことばが取り込まれ、健康な心が育まれることを願い、子どもの手の届くところへ本を配置するなどの工夫をしています。

【今後の取り組み】

・読み聞かせの継続と家庭との連携

子どもにとっての読み聞かせや読書の大切さは、幼稚園・認定こども園（※2）・保育園だけで子どもに伝えられるものではありませんが、園では今後も努めて園児に読み聞かせの機会をつくっていきます。

子どもは自分が好きな本を大好きな人の声で読み聞かせてもらえることに大きな喜びを感じてくれます。園から、子どもが今どのような本に興味をもっているかなどを保護者に知らせ、また、好きな本を家へ持ち帰ることができるような取り組みを始め、本に興味を持つ年齢を捉え、幼稚園・認定こども園・保育園、家庭が連携をとり、読書の推進に努めます。

・市民ボランティアとの連携

「おはなし会」等の読書行事を開催している園が少ないため、市民ボランティアと連携を図り、おはなし会などの読書行事の開催に努めます。

また、市内5保育園内に設置されている子育て支援センターを利用する子どもは、普段は家庭での生活が主であることから、家族から読んでもらうことがほとんどと考えられます。子育て支援センターに来てたくさんのお友達と一緒に聞くおはなし会はとても新鮮で、“本は楽しい”という気持ちにさせてくれるでしょう。子育て支援センターでは、子どもの成長過程で本のもたらす効果が大きいことから、おはなし会に率先して取り組んでいきます。

(2) 小学校

【現状と課題】

小学校では保護者や市民ボランティアの協力を得て、おはなし会など読書推進のための取り組みを実施しています。また、全ての学校で10～15分の一斉読書の時間が設けられ、児童の読書への意欲喚起や落ち着いた生活リズムの醸成に大きな効果を上げています。しかし、小学校低学年で本を全然読まないと回答した児童が3.7%おり、その理由として読書のための時間がないと回答した児童が45.0%という状況です。学校で一斉読書の時間が、本に触れる貴重な時間となっています。一斉読書などの取り組みを家庭と連携し、「家庭読書の日」を設定するなど、読書を楽しむ大人の姿を児童に示す取り組みが始まっています。

各学校とも、学校図書館は毎日開けていますが、年間の貸出数は1人約12冊となっています。

授業で学校図書館を利用しているかの問いでは、週に1回利用すると答えた1校を除く6校では月に1回前後の利用と答えています。授業で学校図書館を利用する機会が増えることにより、学校図書館が身近になり、本に触れる機会となるのではないかと推察します。

子どもたちが学校図書館へ足を運ばない原因として、図書館内に担当職員がいないことが考えられます。司書教諭(※3)を配置している学校はあるものの、学校司書(※4)を配置しているところはありません。子どもたちが主に読書をする場所である学校においてこそ、子どもたちの疑問・質問・読書相談等あらゆる場面に対応できる専門職員の配置が強く望まれています。

学校司書を補うため、仙北市では、平成24年度から学校図書館支援事業(※5)として、学校図書館支援員が学校を定期的に訪問し支援をしています。学校図書館支援員は、いまでは学校から頼られる存在となっています。

【今後の取り組み】

・読書意欲向上のための工夫

それぞれの学校では特色ある取り組みが行われていて、学級文庫の設置や教職員を

含む一斉読書の時間、各校独自の推薦図書の設定等を継続し、子どもの読書意欲の向上を図ります。教職員自らの読書で印象に残ったことを児童生徒に紹介するなど、子どもが読書の楽しさを味わえるような工夫や取り組みを心掛けます。

読書に関するイベントとして、読書集会や文学作品のお気に入り箇所や暗唱の奨励等の個性的な取り組みを実施している学校があります。子どもが同じ活動を一斉に行うことにより子どもたち同士が互いに刺激し合い、読書にはずみを持たせる効果が期待されます。読書習慣の定着していない子どもが友達の読書する様子に感化され読書量増加に結び付くことは以前から言われています。それらの取り組みがより多くの小学校で実施されるよう働きかけます。

・学校図書館の活用促進

小学校の授業での学校図書館の活用は特定の教科に限られている傾向があります。多様な図書資料等を用いた授業や読書の時間として学校図書館が一層活用されるよう教職員に働きかけます。

・学校司書の配置

読書活動を推進するにあたり学校司書の必要性は各学校で認識していて、全校配備に向け働きかけていきます。

努力目標

○小学校における一人当たりの学校図書の平均貸出冊数
(平成24年度) 12冊/年 ⇒ 15冊/年 (目標値)

(3) 中学校

【現状と課題】

市内すべての中学校で15～20分の一斉読書の時間を設け、教職員と生徒が共に読書に取り組んでいます。全教職員による生徒への読み聞かせを実施している中学校があり、読み聞かせから感じられたことを教師、生徒が共に語り合う時間ができ、生徒の心を育てる上で成果が見られます。

読書が好きだと答える子どもの割合は、小学校低学年74.4%、小学校高学年68.4%と比べて、中学生になると76.0%と高くなっています。好きでも嫌いでもないと答える子どもの割合の変化は微少であり、嫌いだと答える子どもの割合が減少している(小学校低学年5.5%、小学校高学年8.1%、中学生4.0%)ことから、中学生は読書の楽しさ、また、思春期における読書の必要性を日々の生活の中で感じ取っているといえます。

しかし、授業中の学校図書館の利用については、市内中学校の40%がほとんど利用していません。利用している中学校でも年間4・5回であり、4・5教科での利用が多いことから考えると、1教科につき年1回の利用という現状です。学校図書館か

ら生徒への年間貸出冊数は、多い学校では15冊弱ですが、40%の学校で1冊未満と、学校間格差が認められます。読書関連行事を開催している中学校は40%と多くなく、また、市民ボランティアの協力を得ている学校もほとんどありません。学校図書館利用の推進が中学校での課題です。

仙北市では学校図書館支援員を市内小中学校に定期的に派遣して図書館環境の整備等の支援を行っていますが、中学校においても学校司書の配置が望まれています。

【今後の取り組み】

・情報の共有化と学校間連携の強化

各校で特色ある取り組みが実施されていますが、仙北市内学校間の連携を強め、共有しあい、校区を越えて本や読書について同じ話題で語り合える環境と機会を設けます。

・学校司書の配置

学校司書の配置をはじめ、開かれた学校図書館となるよう学校図書館職員が配置できるように努めます。

・学校図書館の活用

休憩時間や放課後は学校図書館を利用する機会が持ちにくい状況にあります。多様な教科で複数回活用する授業を行い、親しみのもてる場所になるよう努めます。

また、学校図書館と市立図書館を結ぶ横断検索システムを活用して、読みたい本や学習に必要な本を学校にいながらにして市立図書館から借りられる利点を周知し、生徒がいつでも活用できる学校図書館となるよう努めます。

・市民ボランティア等の協力

現在、読み聞かせ会などを実施している学校はありませんが、実施を希望する学校はあります。全校読書集会などで読み聞かせの機会を持つことは、読書への興味や読書意識向上にもなることから、ボランティアの協力を得ながらきっかけづくりに取り組んでいきます。また、市民ボランティア等の協力が得られやすいように、開かれた学校づくりを推進します。

努力目標

○中学校における一人当たりの学校図書の平均貸出冊数
(平成24年度) 2冊/年 ⇒ 5冊/年(目標値)

(4) 高等学校

【現状と課題】

社会人へと近づく高等学校では最も自主的活動が進んでいます。読書行事、学校図

書館の運営を生徒会活動の一つとして取り組み、図書委員会が発行する「図書館だより」は学校図書館のガイダンス、新刊図書の魅力等を詳細に伝え、自校のホームページにアップして生徒自身でつくる読書活動を意識づけています。また、1校2名の司書教諭による的確なサポートが高校生の読書への意欲を盛り立てています。その結果、昨年より市教育委員会主催読書感想文コンクールへ応募する高校生も出てきました。

授業における学校図書館は毎週3～6時間の利用があり、多様な教科で調べ学習、レポート作成のための「学習・情報センター」として機能しています。

しかし、読書が好きと回答している生徒が、中学校では76.0%であったのに比べ、高等学校では54.0%と減っています。読書が嫌いと答えた生徒は中学校では4.0%なのが高齢学校では9.0%と2倍以上に増加しています。さらに、高校生の40.9%が本を全然読まないと回答しており、その中の47.9%が読書のための時間がないと回答しています。コンピュータや携帯端末に接する時間と読書の時間の差が大きくなるのもこの時期の生徒の傾向として捉えられていて、情報機器の活用の仕方を含め、生活習慣の在り方を考えていくことが課題の一つです。また、授業や学習でよく利用されている学校図書館の生徒一人あたりの年間貸出冊数は1冊未満となっており、市立図書館も併せて読書活動を進める場所としての学校図書館の活用も課題となっています。

【今後の取り組み】

・読書への興味の呼び戻し

読書をする時間が減少傾向にある高校生には、読書することへの興味を呼び戻すことが、必要な取り組みとなります。そのためには、周囲の大人が手本となり読書を楽しむ姿をより多くの高校生に示す取り組みが必要です。

・学校と図書館の連携強化と情報の提供

放課後、勉強のために市立図書館を利用する高校生はいますが、読書のために図書館を利用する高校生はあまりいません。仙北市では市立図書館の新刊情報やイベント情報を広報で定期的に発信しています。一方、高校には学校図書委員会という組織があり、図書だよりを作成し、生徒の読書活動の推進を図っています。市立図書館の情報を学校図書委員会に提供するなど連携を図り読書意欲向上に努めます。

努力目標

○高等学校における一人当たりの学校図書の平均貸出冊数
(平成24年度) 0.75冊/年 ⇒ 2冊/年(目標値)

4 市立図書館

人の生涯において、より充実した生き方、心豊かな生き方をサポートする機関として、また、読書の機会・場所そして学習意欲を満足させるための知的情報提供の場として、市立図書館の果たす役割は大きいものがあります。

市立図書館は、一般利用者はもとより、次世代を担う子どもたちからの多様なニーズに速やかに応えられることが求められます。そのために読書環境の整備をし続けなければなりません。

こうした背景のなか、平成22年度には学習資料館・田沢湖図書館・西木公民館図書室の図書管理がシステム統合され、更に平成23年度には市内12の小中学校図書館とのネットワーク化も実現しました。

市立図書館において子どもたちが読書サービスを受ける以外に、学校に居ながらにして情報収集・学習補助・横断検索による図書検索などが利用できる状態にあります。市立図書館には仙北市の知的ネットワークの中核を担うべき役割があります。

【現状と課題】

仙北市には現在市立図書館が2館ありますが、立地要件から見ると市民全体へ平等なサービスが提供されているわけではありません。アンケート結果にも表れているように児童・生徒には市立図書館の存在が希薄で、読書をする場所として自宅が55.2%、学校が38.9%となっていて日常過ごしている場所が圧倒的で94.1%を示しています。本を読むために図書館へ足を運ぶ人は少ないのが現状です。

また、欲しい本は購入するという割合が高く、本を買うという選択の他に、図書館に行くとき読みたい本が借りられるという図書館の役割を理解し、目を向け足を運んでもらうための周知・企画・イベントなど独自のサービスが不可欠になっています。

学校・家庭・地域そして図書館が連携をとることで、密度の濃い読書活動の推進が図られます。

図書館の今後の課題としては、貸出冊数や利用者数等、単に利用実績を上げるだけでなく図書館の役割を理解してもらうために何が必要で何をすべきかを常に考え、広く市民にアピールしていかなければなりません。子どもたちの興味を引く「展示」「イベント」「学習補助」そして館内外の環境整備に力を入れることが必須となります。市立図書館とはいえ、従来からの図書館に対するイメージや既成概念にとらわれず、社会動向や図書館をとりまく現状を十分に認識し、より現代的で魅力的な図書館像を常に模索し利用者である子どもたちが目を輝かせるような図書館であることが大切です。

図書館の図書購入は予算の中で利用者のニーズに応え、図書館としての役割が果たせるよう努めています。

仙北市では、学校図書館支援事業により、平成24年度から学校図書館支援員2名

を配置し、市内の小中学校を定期的に訪問し、各校の図書館で支援活動を行っています。すべての学校に学校司書がない状況の中で、学校図書館支援員の活動は学校図書館の活性化に大きな役割を果たしています。平成26年6月27日に改正学校図書館法が公布され、平成27年4月1日から施行されます。この改正では、第六条に司書教諭のほか専ら学校図書館の職務に従事する職員を「学校司書」と位置づけ、学校に置くよう努めることと示されています。学校にも図書担当の先生がいますが多忙のため学校図書館支援員に頼らざるを得ない状態です。市内全校に学校司書が配置されるまで学校図書館支援員の派遣は必要とされています。

【今後の取り組み】

・図書館の情報提供

子どもたちの読書意識を高めるため、各種イベントや本の情報などを広報やホームページなどを活用し、積極的に発信します。

・図書の充実

子どものニーズにあった本や子どもに読ませたい本、喜ばれる本の配備に努め、利用しやすい図書館を目指します。

・成長過程に合わせた選書・展示・イベント等の実施

子どもたちの年代に合わせた選書・展示・イベント等の企画を実施し、図書館への興味が高まり利用増につながるよう努力していきます。

・学校等への支援

小中学校・幼稚園・認定こども園・保育園に対し図書や展示などの情報提供に加え、積極的に訪問し読み聞かせ会や本にまつわる行事などの取り組みを実現していきます。

・親子を対象とした読書活動の実施

市民ボランティア等の協力を得て、親子を対象とした読み聞かせ会などの読書活動を継続して開催します。

・親しまれる図書館づくりの推進

学習や遊びを通して図書館への理解をより一層深めてもらうため、図書館たんけん隊などの児童行事などを取り入れ、図書館という既成概念にとらわれない多様なイベントを企画し、親しまれる図書館づくりに努めます。

・図書館の役割等を学ぶ機会を支援

将来の図書館員を生み出すような試みとして職場体験や体験学習などを積極的に受け入れ、図書館の役割・図書そのものの価値や意義について学ぶ機会を設けます。

・学校図書館支援事業の継続

改正学校図書館法施行により、全ての学校に学校司書が配置されることとなりますが、配置が完了するまでは学校図書館支援事業を継続します。

努力目標：蔵書数

(平成26年4月1日)

	184,811冊	→	200,000冊(目標値)
内児童書数	32,656冊	→	34,500冊(目標値)

努力目標：児童書貸出冊数

(平成25年度)田沢湖図書館	4,236冊	→	4,500冊(目標値)
学習資料館	8,688冊	→	10,000冊(目標値)

努力目標：3～18歳までの図書館利用者数

(平成25年度)	2,214人	→	2,500人(目標値)
----------	--------	---	-------------



用語解説

※1 ブックスタート

市区町村自治体が行う0歳児健診などの機会に「絵本」と「赤ちゃんと絵本を楽しむ体験」をプレゼントする活動です。赤ちゃんと保護者が絵本を介して心ふれあう時間を持つきっかけを届けます。

対象は活動を行う市区町村に生まれたすべての赤ちゃんとその保護者です。

※2 認定こども園

幼稚園、保育所等のうち、(1)就学前の子どもに幼児教育・保育を提供する機能(保護者が働いている、いないにかかわらず受け入れて、教育・保育を一体的に行う機能)、(2) 地域における子育て支援を行う機能(すべての子育て家庭を対象に、子育て不安に対応した相談活動や、親子の集いの場の提供などを行う機能)を備える施設で、都道府県知事が「認定こども園」として認定した施設をいいます。

※3 司書教諭

学校図書館法では、学校図書館の専門的職務を担う教員として、「司書教諭」を学校に置くこととしています。(学級数が合計12学級以上の学校には、必ず司書教諭を置かなければなりません。)

司書教諭は、教諭として採用された者が学校内の役割としてその職務を担当し、学校図書館資料の選択・収集・提供や子どもの読書活動に対する指導等を行うなど、学校図書館の運営・活用について中心的な役割を担います。

※4 学校司書

教員としてではなく事務職員として採用された者が学校図書館に勤務する場合は、学校図書館担当職員(いわゆる「学校司書」)と呼ばれます。

※5 学校図書館支援事業

学習資料館の独自の事業。市内小中学校に選任の司書がない現況において、学校図書館支援員2人が市内小中学校12校を定期的に訪問し、図書データの入力・図書の発注・書架整理・配架デザイン等、学校図書館の環境整備作業を行い、各校の図書担当教諭の手助けをしています。

資料編

アンケート調査概要

1. 調査の目的 子どもの読書の実態を把握し、仙北市子ども読書活動推進計画策定の基礎資料を得るため。
2. 調査期間 保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校生 平成26年1月14日～2月14日
在宅の乳・幼児 平成26年2月26日～3月14日
3. 調査対象 仙北市内の保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校生3,594人
仙北市内の在宅乳・幼児231人
仙北市内の保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校26施設

4. 回収率

	調査対象人数	回収人数	回収率
在宅乳・幼児	231 人	116 人	50.2 %
保育園・幼稚園	863 人	750 人	86.9 %
小学校 低学年	629 人	607 人	96.5 %
高学年	642 人	584 人	91.0 %
中学校	673 人	630 人	93.6 %
高等学校	787 人	555 人	70.5 %
合計	3,825 人	3,242 人	84.8 %

○アンケート集計結果(総括)

質問1-1 回答数・回答率

	就学前	小学校低	小学校高	中学校	高等学校	計
配付数	1,094	629	642	673	787	3,825
回答数	866	607	584	630	555	3,242
回収率	79.2%	96.5%	91.0%	93.6%	70.5%	84.8%

質問1-3 性別

	就学前	小学校低	小学校高	中学校	高等学校	計
男性	427 49.3%	287 47.3%	289 49.5%	324 51.4%	161 29.0%	1,488 45.9%
女性	439 50.7%	320 52.7%	295 50.5%	306 48.6%	394 71.0%	1,754 54.1%

質問2 あなたは、本を読むのが好きですか？嫌いですか？

	就学前	小学校低	小学校高	中学校	高等学校	計
①好き	704 81.9%	447 74.4%	399 68.4%	479 76.0%	299 54.0%	2,328 72.1%
②嫌い	7 0.8%	33 5.5%	47 8.1%	25 4.0%	50 9.0%	162 5.0%
③どちらでもない	149 17.3%	121 20.1%	137 23.5%	126 20.0%	205 37.0%	738 22.9%
計	860	601	583	630	554	3,228

質問3 あなたは1ヶ月のうち、だいたい何冊の本を読みますか？(マンガを除く)□

	就学前	小学校低	小学校高	中学校	高等学校	計
①1～2冊	260 30.1%	95 15.9%	160 27.3%	293 46.6%	253 45.8%	1,061 32.8%
②3～4冊	256 29.6%	106 17.7%	175 29.9%	201 32.0%	49 8.9%	787 24.4%
③5～6冊	119 13.8%	85 14.2%	108 18.4%	53 8.4%	9 1.6%	374 11.6%
④7～8冊	41 4.7%	89 14.9%	33 5.6%	22 3.5%	9 1.6%	194 6.0%
⑤9～10冊	36 4.2%	62 10.4%	35 6.0%	19 3.0%	3 0.5%	155 4.8%
⑥11冊以上	108 12.5%	140 23.4%	53 9.0%	13 2.1%	4 0.7%	318 9.8%
⑦全然読まない	44 5.1%	22 3.7%	22 3.8%	28 4.5%	226 40.9%	342 10.6%
計	864	599	586	629	553	3,231

質問4 全然読まないのはなぜですか？(質問3で⑦と答えた人のみ)

	就学前	小学校低	小学校高	中学校	高等学校	計
①読みたい本が無いから	3 5.7%	14 35.0%	14 48.3%	17 51.5%	94 40.2%	142 36.5%
②読みたい本はあるが読む時間が無いから	24 45.3%	18 45.0%	4 13.8%	11 33.3%	112 47.9%	169 43.4%
③その他	26 49.1%	8 20.0%	11 37.9%	5 15.2%	28 12.0%	78 20.1%
計	53	40	29	33	234	389

質問5 あなたは本を読むとき、どこで読むことが多いですか？

	就学前	小学校低	小学校高	中学校	高等学校	計
①自宅	825 94.6%	185 29.5%	224 33.6%	252 37.2%	393 70.1%	1,879 55.2%
②図書館	7 0.8%	45 7.2%	49 7.3%	21 3.1%	24 4.3%	146 4.3%
③学校	39 4.5%	381 60.7%	383 57.4%	401 59.2%	120 21.4%	1,324 38.9%
④友人宅	1 0.1%	6 1.0%	7 1.0%	1 0.1%	4 0.7%	19 0.6%
⑤その他	0 0.0%	11 1.8%	4 0.6%	2 0.3%	20 3.6%	37 1.1%
計	872	628	667	677	561	3,405

質問6 マンガの他に、とても楽しかった本の名前を教えてください。

就 園 前	はらぺこあおむし、だるまさんシリーズ、いないいないばあ、アンパンマンシリーズ、ももたろう、ナンタンシリーズ、ぐりとぐらシリーズ 他
小学校低学年	かいけつゾロリ、ルルとララのシリーズ、ほねほねザウルス、ミッケ、れきしの本、ジブリ、チェブラーシカシリーズ、きょうふのとしでんせつ 他
小学校高学年	伝記シリーズ、歴史シリーズ、かいけつゾロリ、ひみつシリーズ、人物伝、一期一会、怪盗レッド、名探偵コナン、ハチ公物語 他
中 学 校	永遠の0、ハリーポッター、図書館戦争、神様のカルテ、王様ゲーム、カゲロウデイズ、へんさち70の野球部、空想科学読本 他
高 等 学 校	永遠の0、図書館戦争、99の涙、ハリーポッター、神様のカルテ、王様ゲーム、リアル鬼ごっこ、三国志 他

質問7 小さい頃、家族に本を読んでもらっていましたか？

	就学前	小学校低	小学校高	中学校	高等学校	計
①良く読んでもらっていたと思う	402 47.2%	106 17.5%	400 68.7%	413 65.7%	374 67.4%	1,695 52.6%
②あまり読んでもらえなかったように思う	450 52.8%	498 82.5%	182 31.3%	216 34.3%	181 32.6%	1,527 47.4%
計	852	604	582	629	555	3,222

質問8 本を読んでくれたのはどんな人が多かったですか？

	就学前		小学校低		小学校高		中学校		高等学校		計	
①母	597	67.2%	258	48.3%	379	62.0%	433	66.0%	392	70.8%	2,059	63.5%
②父	66	7.4%	47	8.8%	41	6.7%	38	5.8%	34	6.1%	226	7.0%
③祖母	132	14.8%	90	16.9%	125	20.5%	126	19.2%	85	15.3%	558	17.2%
④祖父	23	2.6%	15	2.8%	29	4.7%	20	3.0%	23	4.2%	110	3.4%
⑤その他	71	8.0%	124	23.2%	37	6.1%	39	5.9%	20	3.6%	291	9.0%
計	889		534		611		656		554		3,244	

質問9 あなたは、家に帰ってから、おもに何をしていることが多いですか？

	就学前		小学校低		小学校高		中学校		高等学校		計	
①テレビを見る	376	27.6%	166	21.9%	165	22.2%	212	29.2%	249	41.9%	1,168	27.9%
②ゲームをする	91	6.7%	185	24.4%	185	24.9%	110	15.2%	65	10.9%	636	15.2%
③友達や家族と遊ぶ	406	29.9%	61	8.0%	41	5.5%	9	1.2%	9	1.5%	526	12.6%
④部活動や習い事、勉強をする	22	1.6%	235	31.0%	265	35.6%	242	33.4%	94	15.8%	858	20.5%
⑤ぼんやりする	4	0.3%	17	2.2%	22	3.0%	77	10.6%	101	17.0%	221	5.3%
⑥本を読む	102	7.5%	51	6.7%	48	6.5%	42	5.8%	16	2.7%	259	6.2%
⑦その他	359	26.4%	43	5.7%	18	2.4%	33	4.6%	60	10.1%	513	12.3%
計	1,360		758		744		725		594		4,181	

質問10 家族の中で、本のお話をしますか？

	就学前		小学校低		小学校高		中学校		高等学校		計	
①よくする	86	10.1%	50	8.3%	65	11.2%	30	4.8%	20	3.6%	251	7.8%
②たまにする	573	67.0%	297	49.2%	275	47.3%	273	43.5%	157	28.6%	1,575	49.0%
③まったくしない	196	22.9%	257	42.5%	241	41.5%	324	51.7%	372	67.8%	1,390	43.2%
計	855		604		581		627		549		3,216	

質問11 あなたは、どのくらい図書館にいきますか？

	就学前		小学校低		小学校高		中学校		高等学校		計	
①月に1～2回	77	9.0%	160	26.6%	125	21.5%	127	20.3%	62	11.2%	551	17.1%
②月に3回以上	15	1.7%	46	7.7%	107	18.4%	70	11.2%	15	2.7%	253	7.9%
③年に1～2回	85	9.9%	81	13.5%	78	13.4%	76	12.1%	47	8.5%	367	11.4%
④年に3～4回	52	6.1%	43	7.2%	50	8.6%	50	8.0%	35	6.3%	230	7.1%
⑤年に5～11回	14	1.6%	53	8.8%	30	5.2%	33	5.3%	22	4.0%	152	4.7%
⑥全然行かない	616	71.7%	218	36.3%	191	32.9%	270	43.1%	373	67.3%	1,668	51.8%
計	859		601		581		626		554		3,221	

質問12 全然行かないのはなぜですか？(質問11で⑥と答えた人のみ)

	就学前		小学校低		小学校高		中学校		高等学校		計	
①興味が無い	48	7.0%	51	19.8%	39	18.3%	52	18.6%	122	31.1%	312	17.1%
②行きたいけど遠い	49	7.2%	61	23.6%	51	23.9%	29	10.4%	47	12.0%	237	13.0%
③本を読みたいが行く時間がない	200	29.2%	68	26.4%	42	19.7%	60	21.4%	68	17.3%	438	24.0%
④読みたい本は買うので行かない	166	24.3%	19	7.4%	49	23.0%	111	39.6%	137	34.9%	482	26.4%
⑤学校に読みたい本があるので行かない	75	11.0%	29	11.2%	22	10.3%	18	6.4%	2	0.5%	146	8.0%
⑥その他	146	21.3%	30	11.6%	10	4.7%	10	3.6%	16	4.1%	212	11.6%
計	684		258		213		280		392		1,827	

質問13 図書館の行事に参加したことがありますか？

	就学前		小学校低		小学校高		中学校		高等学校		計	
①ある	76	9.0%	101	17.0%	116	20.1%	51	8.1%	31	5.7%	375	11.7%
②ない	773	91.0%	494	83.0%	460	79.9%	576	91.9%	516	94.3%	2,819	88.3%
計	849		595		576		627		547		3,194	

質問14 それはどんな行事でしたか？(質問13で①と答えた人のみ)

	就学前		小学校低		小学校高		中学校		高等学校		計	
①読み聞かせ会	69	87.3%	92	80.7%	88	70.4%	34	100.0%	27	90.0%	310	81.2%
②その他	10	12.7%	22	19.3%	37	29.6%			3	10.0%	72	18.8%
計	79		114		125		34		30		382	

※ 無回答、複数回答の場合があるため、人数と必ずしも一致しません。

○アンケート集計結果(施設別:幼稚園・保育園)

		幼稚園・保育園(11園)				幼稚園・保育園(11園)	
質問2	貴施設の在園児数をおたずねします。(平成25年5月1日現在)	863		質問10	質問9の他に、子どもの読書に関する行事を実施している場合お書きください。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年ではないが保護者会(学習会)に講師を招いて子どもと一緒に絵本の読み聞かせを実施している ・中学生が来て読み聞かせをしてくれる ・移動図書館に申込み、できれば利用している 	
質問3	貴施設には、何冊ぐらいの子どもの本を所蔵されていますか。また、年間に何冊ぐらいの本を購入されていますか。	所蔵冊数(平成25年度当初)	3,486	質問11	子どもの読書に関して市立図書館に望むことは何ですか。(当ではまるものをいくつでも選んでください)	①団体貸出の充実	2
		年間購入冊数(平成24年度)	227			②定期的な配本	3
		・四季の絵本を5・6冊位ずつ届けてくれる方がおり、楽しみにまっています				③本や教育についての情報提供	5
質問4	市立図書館等の団体貸出を利用されていますか。	①している	6			④児童書の充実	4
		②していない	5			⑤子どもの本についての専門知識をもった職員の配置	3
質問5	団体貸出を利用されていない場合、その理由をお聞かせください。(複数回答可)	①団体貸出の制度・使い方を知らなかった	1			⑥図書館の利用指導やお話し会など、園への職員の派遣	8
		②図書館まで借りに行く時間がない	3			⑦子どもや保護者向けの行事の充実	4
		③紛失や破損が心配だから	0			⑧リサイクル本の譲渡	1
		④施設にある本だけで十分	1			⑨その他()	2
		⑤その他()	1			・十二分に絵本が充実していると思う ・移動図書館が良かった	
		・その時担当した保育士、子どもによる		質問12	子どもの読書環境を良くするために貴施設で取り組んでいること今後取り組みたいことがあればお書きください。	【取り組んでいること】 <ul style="list-style-type: none"> ・いつでも絵本や図鑑など読めるように絵本コーナーを設けたり、保育室内にもいつでも手にとりやすいように絵本などをおいている ・季節などよって絵本の入れかえや子の目や手のとどく場への配置している ・毎週金曜日を絵本貸出日とし、絵文庫から園児が自分で2冊選んで持ち帰り家族に読んでもらうようにしている ・情緒豊かな子に育つように色々な本を読み聞かせをしている。色々な絵本の世界を知ってもらいたいのでジャンルにこだわらず読むようにしている ・子どもに絵本を読んでとせがまれたときは、すぐ読んであげる(後では言わない)。絵本に興味を示さない子どもは、膝の上で読んであげるよう気を配っている ・図書の実充 	
質問6	団体貸出を利用している場合、使いにくい点や改善を希望する点があれば、お書きください。	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児向けの絵本情報(季節、行事、新刊など)のメール配信があればいい ・保育園では予算の都合で十分に本を購入できないので利用している 				【今後取り組みたいこと】 <ul style="list-style-type: none"> ・園だよりクラスだより、保護者会の広報等の紙面等とおし、子どもの実態を知らせるとともに読書(読み聞かせ)に感心を持たせていきたい ・絵本修繕ボランティアの派遣 ・園外活動として、年長児を図書館へ連れて行き、本を選んだり読んだりする体験をさせてあげたい ・講師を招いて保護者と子ども向けの講演会開催 ・図書の実充(本の修繕も含めて) ・毎日の繰り返しが重要なので、全職員で絵本を読んでもとせがまれた時は読んであげるよう心掛ける 	
質問7	先生方は、どのくらいの頻度で読み聞かせをしていますか。また、どんな時間帯・生活の場面で絵本の読み聞かせをしていますか。(例:お昼寝の前、子どもにせがまれた時、毎日時間を決めて等)	①毎日読む	10			【今後取り組みたいこと】 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期から児童期は大人がお話しを読んであげる機会たくさんつくってあげる。それがやがて、「自分で読みたい!」となったときが自らの読書になる。それまで読んであげる大人がたくさん子どものまわりについて欲しいと思う ・保育園では色々な絵本を繰り返し読むことで子ども達は絵本を広げると静かに聞き入ったり一緒に声を合わせて読みあげたりする。それほど、子ども達は本が好きなのだと思う。その“好き”が成長してからも続くようにいい本(心が躍る本、感動する本、自分を知らない世界へ連れていってくれる本)とズーと接し続けられたいと思う。途切れることなく本の楽しさを知ってもらいたい ・読み聞かせの大切さについて家庭への啓蒙が不可欠と考えている。また、望ましい図書(年齢にあった本)についての情報発信をもっとするべきだと認識している 	
		②週に1、2回くらい	0				
		③月に()回くらい	0				
		④ほとんど読んでいない	0				
		<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会后、昼寝の時、降園前など ・子どもが「読んで」と持ってきた時(随時) ・行事や遊びに合わせて ・集中力がなくなってきた時 ・活動の後(クールダウンしたい時) 					
質問8	読み聞かせ以外で、どのように本を活用されていますか。(複数回答可)	①施設行事の題材として活用している	11	質問13	その他、子どもの読書活動推進計画について、ご意見がありましたら、ご自由にお書きください	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期から児童期は大人がお話しを読んであげる機会たくさんつくってあげる。それがやがて、「自分で読みたい!」となったときが自らの読書になる。それまで読んであげる大人がたくさん子どものまわりについて欲しいと思う ・保育園では色々な絵本を繰り返し読むことで子ども達は絵本を広げると静かに聞き入ったり一緒に声を合わせて読みあげたりする。それほど、子ども達は本が好きなのだと思う。その“好き”が成長してからも続くようにいい本(心が躍る本、感動する本、自分を知らない世界へ連れていってくれる本)とズーと接し続けられたいと思う。途切れることなく本の楽しさを知ってもらいたい ・読み聞かせの大切さについて家庭への啓蒙が不可欠と考えている。また、望ましい図書(年齢にあった本)についての情報発信をもっとするべきだと認識している 	
		②日常のごっこ遊びなどに取り入れている	8				
		③子どもに自由に読ませている	11				
		④子どもや保護者に貸出している	5				
		⑤その他()	0				
		⑥特になし	0				
質問9	市民ボランティアや保護者の方による「おはなし会」を実施していますか。また、どのくらいの頻度でしていますか。	①している	3				
		②していないが、今後機会があればやりたい	8				
		③していないし、今後もある予定はない	0				
						年1~3回程度	

○アンケート集計結果(施設別:小学校・中学校・高等学校)

			小学校(7校)	中学校(5校)	高等学校(2校)
質問2	貴施設の児童生徒数をおたずねします。 (平成25年5月1日現在)	1学年	236	203	240
		2学年	193	231	258
		3学年	200	239	289
		4学年	220		
		5学年	197		
		6学年	225		
		計	1,271	673	787
質問3	学校図書館の年間の図書貸出数は何冊ですか。	貸出冊数(平成24年度)	15,299	1,534	593
質問4	学校図書館蔵書冊数	所蔵冊数 (平成25年度当初)	38,710	12,724	47,058
質問5	平成25年度図書費	図書費	3,770,000	1,515,000	200,000
質問6	授業時間以外で、学校図書館を開けていますか。	①毎日開けている	6	4	2
		②時々開けている	1	1	0
		③授業時間以外は開けていない	0	0	0
質問7	6で①②と答えた方におたずねします。開けているのはいつですか。 (複数回答可)	①朝・始業前	2	4	1
		②授業間の休み時間	5	1	1
		③昼休み	3	3	2
		④放課後	3	0	2
		⑤その他	1	1	0
質問8	授業中の学校図書館利用についておたずねします。学校全体として授業中にどのくらい学校図書館を利用していますか。	①週単位で利用がある	1	0	2
		②時々利用がある	6	3	0
		③学校図書館はほとんど使っていない	0	2	0
質問9	8で①②と答えた方におたずねします。主に利用している教科は何ですか。	教科	国語、生活科、総合的な学習	国語、社会、総合、家庭	国語、社会、英語
		教科	社会、総合的な学習、理科、生活科	特活、理科、社会	保健体育科等、家庭科
		教科	理科、社会	美術	
		教科	総合		
	また、どのような時に利用していますか。		<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の利用の仕方 ・調べ学習 ・読書単元 (本の紹介や読書そのもの) ・教材に関連した本を探す。国語辞典、漢字辞典の活用 ・季節の生物植物などを調べる。詩の単元、辞典の活用 ・地理や歴史の学習、ことわざ調べなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・方言の授業 ・辞書の授業 ・作文の授業での本探し ・郷土史の資料活用 ・職業調べ ・本の表紙を活用してデザインを考える ・調べ学習など 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの作成時 ・調べ学習をするため
質問10	学校で、市民ボランティアや保護者の方による「おはなし会」を実施していますか。	①実施している	6	1	0
		②していないが、今後機会があればやりたい	1	2	1
		③していないし、今後もある予定はない	0	2	1
		④児童書の充実	0	0	0
	どのくらいの頻度で実施していますか。	()回/年程度	24回、5回、12回、8回、30回	1回	
質問11	朝の読書など、一斉読書の時間を設けていますか。	①全校で実施している	7	5	1
		②一部の学年で実施している	0	0	0
		③一部の学級で実施している	0	0	0
		④実施していない	0	0	1

			小学校(7校)	中学校(5校)	高等学校(2校)
質問12	(ア) 11で①～③「実施している」と答えた方におたずねします。 どのくらいの頻度で実施していますか。	①ほとんど毎日	5	3	0
		②週()回くらい	2	2	0
		③月()回くらい	0	0	1
	(イ) どの時間帯に何分程度実施していますか。	①朝・始業前に	6	5	1
		②休み時間に	0	0	0
		③昼休みに	1	0	0
		④放課後に	0	0	0
		⑤その他	0	0	0
		() 分程度	10分～15分	15分、20分	15分
	(ウ) 一斉読書で使用する本は、どのようにして用意していますか。	①児童生徒が自分で用意する	4	5	1
		②学級文庫の本を使う	4	1	0
		③学校図書館の本を使う	7	2	1
		④公共図書館から借りる	0	0	1
		⑤その他	0	0	0
	(エ) 一斉読書をしたことで、児童生徒にどんな変化が見られますか。		<ul style="list-style-type: none"> ・読書量の増加 ・読書が日常化し、待ち時間等を利用して読書することは、ごく自然な姿となっている ・読書への興味・感心が高まり読書量が増えた ・朝のスタートにあたり心を落ち着かせて、次の活動に向かうことができる ・読書経験の少ない子も本に親しむことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・心が落ち着き、朝の会や一時間目の始まりがスムーズになる ・読書のおもしろさに気づき、自ら読書する姿が見受けられる ・集中して読書にとりこんでいる ・本に親しんでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・集中力を養う事ができた
	質問13 上記以外に、子どもの読書に関して、過去1年間に実施したイベントや行事などはありますか。(複数回答可)	①読み聞かせ	6	1	1
②講演会		1	0	0	
③読書会		0	0	0	
④講習会・研修		0	0	0	
⑤「子どもの読書の日(4月23日)」や秋の読書週間の関連行事		1	1	1	
⑥その他()		4	1	0	
⑦特になし		0	3		
質問14 専任の学校図書館担当職員がいますか。(平成25年4月現在)	①学校司書がいる	0	0	1	
	②その他の担当職員がいる	1	3	1	
	③専任の職員はいない	6	3	0	
質問15 14で②と③と回答下方にお訪ねします。学校司書の必要性についてどのように考えておられますか。	①とても必要と思う	6	3	2	
	②多少は必要と思う	0	1	0	
	③あまり必要と思わない	1	1	0	
	④その他	0	0	0	
質問16 市立図書館等の団体貸出を利用していますか。	①している	4	0	2	
	②していない	3	5	0	

			小学校(7校)	中学校(5校)	高等学校(2校)
質問17	団体貸出を利用していない場合、その理由をお聞かせください。	①団体貸出の制度・使い方を知らなかった	0	2	0
		②図書館まで借りに行く時間がない	0	2	0
		③紛失や破損が心配だから	2	2	0
		④学校にある本だけで十分	3	1	0
		⑤その他 ()	0	1	0
質問18	子どもの読書に関して、市立図書館に望むことは何ですか。(複数回答可)	①団体貸出の充実	0	0	1
		②配本・連絡車の充実	1	0	1
		③本や教育についての情報提供	1	3	1
		④児童書の充実	2	1	0
		⑤子どもの本についての専門知識を持った職員の配置	2	4	0
		⑥図書館の利用指導など、学校への図書館職員の派遣	6	2	1
		⑦子どもや保護者向けの行事の充実	0	1	0
		⑧リサイクル本の譲渡		0	0
		⑨その他()		2	0
質問19	子どもの読書環境を良くするために貴施設で取り組んでいること今後取り組みたいことがあればお書きください。	【取り組んでいること】	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室の整備 ・月々の風物や行事に合わせた本の紹介コーナーの運営 ・全校で「読書の記録カード」に個々に読んだ本の題名を書き残し何冊読めるかに挑戦している ・高学年は週に1回ずつ曜日を決めて、スペシャルデーとしている(クラス単位で、読書タイムに図書室で読書をする) ・全校読書 ・学校図書館支援員との連携を密にしている ・地域ボランティアによる読み聞かせを実施 ・学級文庫からでも図書コーナーからでも自由に本をかりて読んでもよいことにしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による本の紹介を委員会活動や授業でも取り組んでいる ・図書通信や新刊の紹介プリントの配布 ・図書室で各クラスが朝読する「読書デー」の実施 ・学校放送を活用した読書番組(読書対談、朗読、本の紹介) ・春の全校読書集会(ガイダンスと演奏と読み聞かせのコラボ) ・ボランティアと先生の読み聞かせ ・学年ホールへ必読図書 ・クラスに学級文庫の設置 ・一斉読書 ・「おすすめの本カード」の記入と提示 ・校内読書感想文コンクール 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員主体の館報(年1回発行)、図書館にゆーす(月1回発行)作り ・1、2年生全体による夏の読書感想文コンクールの取り組み ・図書館ニュースの発行 ・館内のレイアウトを変える ・図書委員(生徒)がレファレンスを行い、館内にどんな本があるかを生徒同士で教えあっている
		【今後取り組みたいこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・上記のスペシャルデーを、他の学年にも実施できるようにする ・読み聞かせイベントの回数を増やす又連携 ・見やすい本の展示工夫 ・読書カード等での読書記録とその活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員による読み聞かせ ・国語の読書単元の授業時に作成した「読書のすすめ」「私の一冊」等を全校に発信して啓発する ・学校図書館運営組織を機能させて全校で読書指導や読書活動をすすめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・統合後、配置を工夫し、新しい図書館にふさわしい図書資料をそろえ、利用者に増加につなげる ・図書データ管理 環境の整備 ・「図書館専用の掲示板」を作り、図書館に関する情報を多くの人が見られるようにする
質問20	その他、子どもの読書活動推進計画について、ご意見がありましたら、ご自由にお書きください	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館支援員のおかげで図書室の環境がとてすてきになった。利用のしやすさもすばらしい。また、図書館支援員が来る日は、どの時間帯も貸し出しに対応してもらえるので、子どもたちを図書室に気軽にだしてやることができ大変ありがたい。週1回くらい来てもらえるうれしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館支援員のおかげで図書室の読書環境が見違えるように改善し、とても感謝している。また図書費も増額され蔵書数も増えてきている。ただ、中学校の学校図書館の利用度を高めることはとても難しい。今年度からクラス30冊程度だが学級文庫を設置したらよく読んでくれている。生徒の身近に本を置くことが一つの手立てと思う(管理が難しいので、生徒の図書費で購入し、蔵書には入れていない) 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の公共図書館と連携を図りながら、読書活動の推進計画を進めていきたい ・学校行事に取り入れる ・読書感想文を休み中の課題にする 	

市立図書館

●田沢湖図書館 仙北市田沢湖生保内字武蔵野 1 0 5 - 1 (電話：0187-43-1307 FAX：0187-43-1327)

施設内容 1F 閲覧室、事務室 2F 学習室、会議室、多目的ホール

開館時間 9時～17時

休館日 月曜日、祝日(月曜日が祝日の場合は翌日)、年末年始(12/28～1/4)

蔵書冊数 (H26.4.1現在)

種別	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術		
冊数	1,872	1,326	3,713	4,926	2,656	3,056	(冊)	
	産業	芸術	言語	文学	郷土資料	児童書	合計	
	1,903	6,502	1,220	15,668	3,649	15,905	62,396	

購入・貸出等の実績 (H25年度)

購入冊数	寄贈冊数	来館者数	貸出人数	貸出冊数	インターネット利用者数
1,867	139	10,984	4,725	16,001	2,486

●学習資料館 仙北市角館町田町上丁 2 3 (電話：0187-43-3333 FAX：0187-53-2701)

施設内容 1F 閲覧室、事務室、ボランティア室、閉架書庫 地下 閉架書庫

開館時間 火曜日～土曜日：9時～19時、日曜日：9時～17時

休館日 月曜日、祝日(月曜日が祝日の場合は翌日)、月末、特別整理期間(年10日間)

年末年始(12/28～1/4)

蔵書冊数 (H26.4.1現在)

種別	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術			
冊数	3,045	2,712	8,640	9,814	3,874	3,975	(冊)		
	産業	芸術	言語	文学	児童書	郷土資料	その他	合計	
	2,722	9,630	947	44,378	16,751	12,042	3,885	122,415	

購入・貸出等の実績 (H25年度)

購入冊数	寄贈冊数	来館者数	貸出人数	貸出冊数	インターネット利用者数
1,802	819	99,101	12,581	45,561	2,192

公民館図書室

●西木公民館 仙北市西木町門屋字漆原 8 9 - 2 (電話：0187-47-3100 FAX：0187-47-3140)

施設内容 1F 図書室

開館時間 8時30分～22時

休館日 年末年始(12/28～1/4)

蔵書冊数 (H26.4.1現在)

種別	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術			
冊数	23	105	147	201	122	172	(冊)		
	産業	芸術	言語	文学	児童書	郷土資料	その他	合計	
	52	82	71	1,426	1,104	8	1	3,514	

購入・貸出等の実績 (H25年度)

購入冊数	寄贈冊数	来館者数	貸出人数	貸出冊数
30	-	-	75	195

ボランティアグループ

地区	ボランティア名	人数	主な活動	主な活動場所
田沢湖	おはなしや	5名	読み聞かせ、本の修理	生保内小学校
	アトリエ	10名	読み聞かせ	田沢湖図書館、生保内小学校
角館	うさぎのみみ	5名	読み聞かせ	学習資料館
	やさいの花	10名	朗読会	仙北市総合情報センター
西木	ひまわりの会	12名	読み聞かせ	西明寺小学校

仙北市民読書条例

(目的)

第1条 この条例は、市民の読書に関し、基本理念を定め、市の責務を明らかにするとともに、市民の読書を促進するための措置に関する基本的な事項を定めることにより、心豊かな人々の多い元気なまち仙北市を目指すことを目的とする。

(基本理念)

第2条 読書とは子どもにあっては、生活に必要な日本語を正しく理解し、表現力を高め、創造力を豊かにし、多様な人生を間接的に体験できるものであるとともに、自ら学ぶことを通して得た知識を学習の場で活用することにも寄与するものである。大人にあっては、知識や教養を高め、人生をより良く生きるための指針を得るものである。このような認識の下に、市民がより一層の読書を行うことができるよう、市はそのための施策を講じなければならない。

(市の責務)

第3条 市は、第1条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行うものとする。

- (1) 市立図書館等の蔵書の充実及び情報の提供に関すること。
- (2) 市立図書館、小中学校図書館、公民館等の相互の資料の活用を図るためのネットワーク化の構築に関すること。
- (3) 児童生徒の読書の促進及び学習支援の推進に関すること。
- (4) その他市民の読書の促進に必要な事業

(財政上の措置)

第4条 市は、市民の読書の促進に関する事業を実施するために必要な財政上の措置その他の措置を講ずるものとする。

(委任)

第5条 この条例に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この条例は、平成23年7月1日から施行する。

仙北市子ども読書活動推進計画策定委員会名簿

策定委員会

策定委員長	羽川 茂幸	教育部長
策定委員	浦山 昇	福祉保健部次長兼子育て推進課長
策定委員	米澤 実	福祉保健部次長兼保健課長
策定委員	田口 桂一郎	教育次長兼教育指導課長
策定委員	成田 祐子	生涯学習課長
策定委員	藤原 真栄	市民会館長兼田沢湖図書館長
策定委員	鈴木 孝昭	イベント交流館・学習資料館長

作業部会

部会長	梁田 一史	北浦教育文化研究所指導主事
副部会長	松田 修子	田沢湖図書館館長補佐
部会員	渡部 奈那緒	子育て推進課主査
部会員	田口 瞳	角館保育園副園長
部会員	新山 紀恵子	保健課母子保健係長兼主任保健師
部会員	佐々木 真貴子	生保内幼稚園副園長
部会員	水平 裕見子	イベント交流館・学習資料館館長補佐
事務局	松橋 幸太郎	生涯学習課課長補佐
事務局	浅利 大輔	生涯学習課主任

仙北市子ども読書活動推進計画策定経過

年 月 日	内 容
平成25年12月26日	第1回策定委員会作業部会
平成26年6月13日	第2回策定委員会作業部会
平成26年7月4日	第3回策定委員会作業部会
平成26年7月10日	第4回策定委員会作業部会
平成26年7月29日	第5回策定委員会作業部会
平成26年12月5日～12月12日	策定委員会作業部会 意見聴取
平成26年12月24日	策定委員会

仙北市子ども読書活動推進計画

(平成27年度～平成31年度)

発行者 仙北市教育委員会 生涯学習課

仙北市角館町東勝楽丁19

〒014-0392 TEL:0187-43-3383

発行年月 平成27年3月